

ラン

Amami shrimp orchid / *Calanthe amamiana* / Amami ebine / アマミエビネ

奄美大島のみに生息する高さ 50 センチほどの野生のランで、標高が高く少し陰って湿った広葉樹林の脇に生息する。幅広でひだ状の葉は、鮮やかな緑で、3 月から 4 月にかけて白や濃いピンクの花を縦長の茎に下向きの房状に咲く。近年の研究で分かったのは、アマミエビネは 1 種類の固有種の蜂のみ受粉が可能という。江戸時代（1603-1867）の大名や権力者はアマミエビネを好み、様々な品種を栽培した。アマミエビネは一時期は島中に生息していたが、森林伐採や盗採されたため、現在は絶滅危惧種に指定されている。

Crane-top orchid / *Phaius tankervilleae* / Kakucho-ran / カクチョウラン

大型のランで地面に根を下ろして生育し、英名では「尼僧頭巾ラン」とも呼ばれる。1 メートルほどになり、長い花茎から 4 月から 6 月に複数の花を咲かせる。各花茎には花が十数個つき、外側は白く、内側は濃い茶色と紫色をしている。花は花茎から垂れ下がり、その形から名前が付けられたと思われる。このランはアジア圏で多く見られるが、奄美大島や日本の南部の島では絶滅危惧種に指定されている。

Wind orchid / *Neofinetia falcata* / Furan / フウラン

フウランは日本の固有種であり、本土から琉球諸島に生息している。着生植物のため、陸地ではなく、岩や木の幹に育つ。細く、革のような葉をもち、太い根は麺のように垂れ下がり、繊細な花は花茎から生える長い幹の先に咲く。また、江戸時代(1603-1867)には大名や位の高い人物に好まれ、さまざまな品種が栽培されたが、現在では絶滅危惧種に指定されている。